

湖東普及だより

第29
夏号

編集発行 滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課（発行責任者：北川 良治）
湖東農業普及指導センター
〒522-0071 彦根市元町4番1号
TEL：0749-27-2228 FAX：0749-23-0821 E-mail：ga32@pref.shiga.lg.jp
ホームページアドレス：http://www.pref.shiga.lg.jp/hikone-pbo/nogyo/

「みずかがみ」のブランド化に向けて

滋賀県では「みずかがみ」を、今後の近江米ブランドを牽引する中核品種に位置づけて、生産拡大を進めています。平成28年産は一般社団法人日本穀物検定協会が公表する食味ランキングで、平成27年産に続いて**2年連続で「特A」**を獲得しました。CMなどのPRで知名度も上がっており、実需者からは「みずかがみ」の生産拡大が求められています。

平成28年の湖東地域の「みずかがみ」は右の図に示したとおり、以前と比べておいしいお米の割合が増えました。今後も消費者の皆さんにおいしさを実感してもらえる外観品質と食味を継続することが大切です。

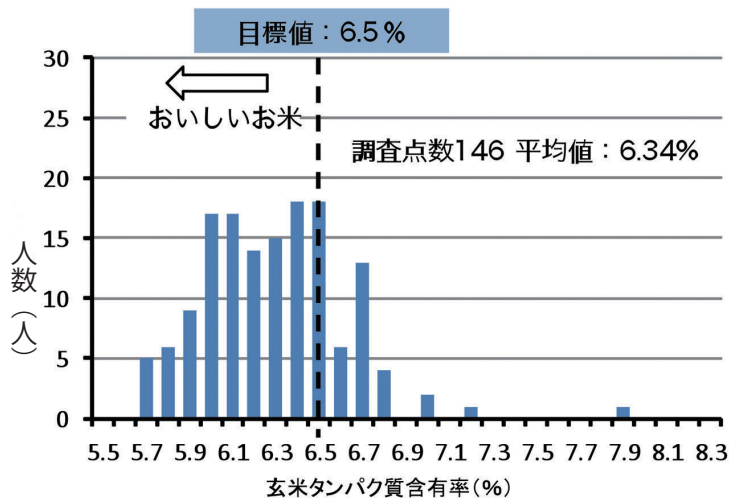


これからの栽培管理

良食味米生産のための仕上げとして、「**水管理**」と「**基本技術の励行**」が重要です。

茎葉の活力を維持するための水管理として、出穂前後各3週間の常時湛水管理、収穫5日前までの間断かんがいの励行をお願いします。

また、品質低下の防止対策として、適切な防除、適期収穫、適正な乾燥・調製などの基本技術の励行をお願いします。



玄米タンパク質含有率の分布（平成28年産湖東地域）

新技術

水稻高密度育苗・精密田植技術の実証

4～5月の春作業は育苗・苗運搬・田植に労力がかかっており、規模拡大を進める農家の大きな負担になっています。また、この時期は代かきなど他の作業と競合しており、労働時間のピークを迎えることから、規模拡大が進まない要因となっています。育苗・苗運搬・田植の省力化は解決すべき緊急の課題となっています。そこで、湖東管内では新たな省力技術として「**水稻高密度育苗・精密田植**」の実証に取り組み始めました。

技術の特徴

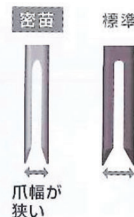
この技術は1箱あたりのは種量を250～300gに増やすことで、10a当たりの使用苗箱数を通常の約半分に減らすことのできる省力技術です。苗箱数を減らすことで育苗・苗運搬の労働時間が削減でき、また育苗資材を減らすこと、さらに育苗ハウスを増設せずに規模拡大することができます。

ただし、は種ムラやほ場均平が悪いと欠株につながるという欠点があります。

今回利用した8条田植機は、高密度には種した苗を小さく掻き取ることができるように、横送り回数を従来の26回から30回に増やし、爪を細くするなどの改良がされています。



■ 幅狭爪・プッシュロッド



出典：ヤンマー密苗クイックマニュアル

管内での取組状況

管内ではJAと連携して5カ所で実証を行っています。ここでは彦根市上岡部町での状況を紹介します。品種はキヌヒカリで、ほ場面積78a、田植5月11日、は種量252g、育苗日数16日、苗丈13cm、植付株数50株、植付本数4.1本、使用苗箱数は8.6枚/10a、欠株率は2%でした。

育苗日数を高密度育苗の標準より2日間長くしたことで苗マットは写真のように十分でした。苗丈は、は種量が多い割に徒長しておらず、欠株はほ場の均平が良かったことからほとんどありませんでした。田植の苗つぎ労働時間は慣行と比較して4分の3程度に短縮することができました。

当課では新たな春作業省力技術の一つとしてこの技術の確立に取り組んでいきます。



高密度育苗とマット形成

厄介な雑草に注意!

「難防除」雑草が増えています!

管内の大豆ほ場では、外来の雑草が繁茂し問題となっています。これらは難防除雑草ともいわれ、は種時期に散布する除草剤だけでは防除が困難であり、非常に厄介な雑草です。草種ごとに対策が必要とされますが、**最善の対策は「ほ場に侵入させない」**ことです。これらの雑草を見かけたら、種が実るまでにほ場外へ持ち出し、確実に処分してください。

○イヌホオズキ類

生育量が大きく、養分と光を大豆と競合し、収量を減少させます。中耕培土以降も発生し、大豆の収穫期でも生育は旺盛です。

収穫時に果実が大豆の子実に入ると、大豆に果汁が付着し汚損粒の原因となります。



イヌホオズキ類

○帰化アサガオ類

収穫時に果実がコンバインの脱こく部に混入すると汚損粒の原因となります。

種子の寿命が5年以上と非常に長く、1株で数千~数万粒の種子を作ることから、一度ほ場に侵入すると根絶は非常に困難になります。



マルバルコウ

雑草が「汚損粒」の原因に!

ここで挙げた雑草で最も問題視されることは汚損粒の発生です。汚損粒が多く発生すると大豆の等級が下がってしまいます。

雑草を侵入させない! ほ場管理の徹底を!

1. 畦畔・農道の法面に発生した雑草を防除し、種子の結実を防止しましょう。
2. 成熟期に残草が見られる場合は、可能な限り手取り除草を実施しましょう。
3. 多発ほ場の収穫は、種子の拡散を防止するため、最後に行いましょう。

今後の活動に期待！新指導農業士

滋賀県では優れた農業経営を実践し、研修生の受け入れなどの農業青年の育成や地域農業の振興に中心となって活躍している農業者を知事が指導農業士として認定しています。平成29年度は新たに2名が認定を受けられました。

彦根市薩摩町 川村 明さん



川村さんは農地の面的集約を進め、区画拡大（平均60a）や乾田直播の導入による省力・低コスト化により安定的な経営を実践しておられます。

地域活動として、JA酒粕米部会の部会員として資源循環型農業を実践、推進されています。

また、彦根の若手水田農業者による勉強会（彦根水田農業栽培技術研究会）を創設させ、青年農業者の育成に活躍されています。

愛荘町東円堂 久保田 ^{ひさし} 九さん



久保田さんは平成24年に株式会社カネクを設立し、水稻の規模拡大だけでなく、露地野菜や果樹を導入するなど経営の複合化を図られました。

また、味噌、ジャムなどの加工も手掛け、平成28年には直売所を開設されるなど6次産業化にも積極的に取り組んでおられます。

農業青年の育成では農業大学校卒業生などを雇用する他、児童への農作業や餅つき体験など食育活動にも力を入れておられます。

農業大学校で農業を学びませんか！！

滋賀県立農業大学校(専修学校)では、本県農業を担う優れた青年農業者等を養成する「養成科」と就農に必要な技術と知識を修得するための「就農科」があります。

昭和44年の開校以来、1,135名が卒業し、就農や農業法人への就職、JAや機械・資材・種苗などの農業関連企業、市場卸売り会社などで活躍しています。

オープンキャンパスも、平成29年7月1日(土)（養成科希望者対象）、同9月2日(土)（養成科、就農科希望者対象）に行われます。詳しくは同校教務担当（0748-46-2551）または農産普及課までお問い合わせください。



各科の願書受付期日

	養成科(修業2年)		就農科(1年間)
	推薦入試	一般入試(1次 [※])	
募集人数	20名程度	10名程度	10名
願書受付期間	平成29年10月2日 ～10月17日まで	平成29年11月22日 ～12月5日まで	平成29年12月20日 ～平成30年1月24日まで
応募資格	滋賀県内に在住で平成30年3月に高等学校卒業見込みの者で成績優秀なもの	高等学校を卒業した者および平成30年3月卒業見込みの者等	20歳以上65歳未満 修了後県内で農業経営を行うことが確実な者等

(※定員に満たない場合2次募集あり)

この印刷物は古紙パルプを配合しています。